

令和元年度 草津市健康づくり推進協議会 健康増進部会		
日時	令和2年1月31日(金)午後1時25分～3時20分	
会場	草津市立さわやか保健センター 視聴覚室	
出席者	委員	内田部会長、山元副部会長、井上委員(医)、山元委員(歯)、井上委員(健)、井口委員〔6名、順不同〕
	事務局	健康増進課係長・清水葉子、同課専門員・田中優佳、同課主査・大槻真里
会議資料	別添のとおり	

#### 次第1. 健康増進課 係長あいさつ

本日は、お忙しいところ、出席いただきありがとうございます。  
ただいまより、健康づくり推進協議会健康増進部会を始めます。  
冒頭から申し訳ありませんが、副部長・課長出席予定でしたが、コロナの緊急の会議対応で欠席の中ではありますが、予定どおり開催させていただきます。  
当部会の委嘱について、7月1日より2年間の任期となっております。  
順に自己紹介をお願いします。

#### 次第2. 委員及び事務局の自己紹介

#### 次第3. 会議の位置づけについて 事務局より説明

健康づくり推進協議会は、16の関係団体+市民20名で構成され、計画・事業推進について協議していただいています。3つの専門部会があり、どの部会も8名の委員で構成しており、昨年度は健康増進部会と保健推進部会が合同開催されました。糖尿病対策のガイドライン等受けて医科歯科連携等について協議、また今年度はそれぞれ、糖尿病対策と歯科保健についての協議を実施することをご了承いただいています。

健康増進計画推進部会は、健康くさつ21の進捗管理と働く世代の健康づくりに重点をおき、協議検討を今年度も同様に実施しています。  
自殺対策や食育推進懇話会の会議もあり、専門部会や各会議の協議事項は協議会に報告して、市民の健康づくりを進めております。本日は健康増進部会、医科歯科連携も踏まえながら、協議をお願いいたします。

#### 次第4. 部会長、副部会長の選出

[部会長]本日の協議会の開催にあたり、円滑な議事進行につきまして、委員の皆様方の御協力をどうぞよろしく申し上げます。早速ですが、議題を進めていきたいと思っております。まず、「草津市の糖尿病対策について」事務局より説明をお願いします。

[事務局] 次第5. 草津市の糖尿病対策について事務局より説明。(資料2-1、2-1、2-3)

[部会長] 糖尿病有病者の増加抑制はどのような値ですか？

[事務局] 国保で特定健診受診者のうち、糖尿病有病者である人の割合です。

[委員] 目標項目が有病率という表記でいいのでは？

[事務局] 変更は難しいが、令和5年で表現の見直しを検討します。

[井口委員] ハイリスク等の受診勧奨の17人というのはどのような人ですか？

[事務局] 糖尿病の治療履歴が1年以上ない人、また、平成29年に特定健診を受け、要医療だったが、医療機関に行かれていない人に訪問によりアプローチを実施しました。

[委員] 医大で管理中の方が、健診の受診勧奨ハガキがきたと、相談がありました。医療管理中であり、冬季のインフルエンザ等の感染のリスクを抱えながら健診のためだけに医療機関に受診する必要はないと伝えています。ハイリスクのフォローもあることから、レセプト情報により、健診の受診勧奨の通知の対象者を絞ることができませんか。

[事務局] 他市町は、医療管理されている方について、結果を市に送り返したら、受けているとみなすという取組みをしていることがあります。保険年金課に確認して当市の状況を確認したいと思います。

[部会長] 糖尿病のレセプトを確認し、ある人の通知は送らないのはどうか？

[事務局] レセプトから探すことは、膨大なデータがあつて難しい。市民の皆様のご負担ないように対応していきたい。

[部会長] 草津市糖尿病対策について事務局から説明をお願いします。

[事務局] 草津市の糖尿病対策について事務局から説明。(資料3-1、3-2、3-3、3-4を説明)

[委員] 生活習慣病相談の案内を40歳代の人に限定して実施している理由は？

[事務局] 働き盛りの40歳の人をターゲットとして、通知しています。60歳代の方等はある程度来てもらっている現状があります。この取組は昨年度からやっていますが、やはり働き盛り世代の利用が少ない状況です。

[委員] 日々の診療でできないことを市が補完してくれることは良いことであるが、HbA1c 5.6～の人に声をかけても、実際は来ないのではないかと。HbA1c 6.0～なら理解できます。案内をして健康増進という意味で市が積極的に関与するのであれば数値を絞り込んだ方が良いのではないかと。

[事務局] 事業の案内を40歳代に絞っているが、HbA1c 6.0～6.4%の人に送付したほうが良いかと検討していきたい。

[委員] HbA1cの数値ではなく、栄養管理や運動指導のことなど日々の診療できない部分を市が健康増進のために対応してもらえるのであればありがたい。相談可

能人数の兼ね合いもあるが、患者で希望する人はたくさんいるのではないですか。

[事務局]先生方から市の方に生活習慣病相談の予約表などをお配りさせていただいています。利用していただきたい。

[委員] HbA1c 6.5以上の人でも、薬は飲みたくない人もおり、そういった人に食事をもう少し頑張ろうと声を掛け、生活習慣病相談を利用することは可能だと思います。

[事務局]守山市の取組みで医師から保健指導の声掛けがあると、特定保健指導の利用率が高いという実績があります。先生方の負担のない範囲で、声掛けをしていただきたい。

[委員]特定保健指導は、高齢の方の参加が多く、自営業の方は平日の指導が来てもらいにくい。HbA1c でみると、対象者の半分以上の人が引っかかっている印象を受ける。病院へ行っても HbA1c 5.6以上であっても 6.0を超えてないので大丈夫と言われる。食事で改善できることがあればと指導をしているが、指導時間30分くらいなので、なかなか全てを伝えることが難しい。今年健康講座を行っており、それを受けると1時間具体的な話を多くの人に伝えられるので、関心のない方にもその話を聴いてもらえるようにすると関心を持ってもらえる。具体的な話を聴く機会をもってもらえ、いいと思います。中身はよいものなので、広げることができたら。

[部会長]この値の区分けについて、指導する数値は HbA1c 5.6～6.4は厚労省が決められているのか？この区分けをかえてみるのはどうか、これは国で決まっていることですか？

[委員]案内をするのを HbA1c 6.0～からに市の基準だけでも変えてみるのはどうか。

[事務局]検査数値によって、声の掛け方は変えることはあるが、通知の基準を変えることは難しいです。HbA1c 5.6～の人について、どんな実態にあるのかご存知なことはありますか。

[委員]健診結果が悪い項目が色々重なっている。そこを見極めていく必要がある。数値でみるだけではなく。HbA1c 7.0でもいかなくてもいいんや！という人もいる。その人が重症化していくのかと思います。

[委員]糖尿病の薬を続けられない理由はあるのでしょうか？

[委員]その人の性格や経済状況、生活状況、病気の怖さを知らないから。

[委員]健康推進員でも、サロンなどで話をすることはあるが、若い人には難しい。他にも啓発することがあれば、取組していきたいと考えます。

[部会長]糖尿病の診断は空腹時血糖でみます。今回の資料には HbA1c のデータのみですが。

[事務局]分かりやすい資料として、空腹時血糖を省略しHbA1cの数値で分けています。

[委員]長期でみるならやはりHbA1cがよいと思います。

[部会長]医科歯科連携について、糖尿病だと歯科の治療が変わったりしますか。

[委員]治療もかわってきます。糖尿病についても着目していきたい。保健指導について、内科と歯科の相互の情報交換ができたとして、患者さんがどこまでその効果を知っているのか。お互い改善できているかがわかれば、歯周病と糖尿病に関する見方が変わってくるので、改善例を見せていくとよいと思います。

[部会長]患者は糖尿病の改善は歯周病の治療に影響するというを知っているのか、あまり知らない人の方が多いのではないのでしょうか。また市で、歯と糖尿病に関して、健康相談時にそのような指導はしていますか。

[事務局]徹底はされていないが生活習慣病相談で、必要に応じて情報提供を実施しています。また、関係課で認識も深めていきたいと考えます。

[部会長]歯科受診を勧めることはありますか。

[委員]歯科医院は通っておられる方は多いので、喪失歯の方には歯科医院に行っているかと聞くこともあります。あえて、歯科受診に行きましょうという声掛けはしていません。以前、糖尿病について簡単な医科歯科の紹介用紙を作成されたが、活用されていますか。

[事務局]十分に活用されていない現状があります。例えば、昨日の保健推進部会でも出された意見として、病院に歯科受診勧奨ポスター、歯科医院に病院の受診ポスターを貼るという案がありました。

[委員]掲示板のキャパシティにもよる。簡単に医科歯科連携できるもの、情報共有できるツールがあるとよいと思います。

[事務局]もう一度、紹介用紙を見直してみたいと思います。

[委員]県の事業の中で、健康推進員が使用している媒体の糖尿病予防パネルを実演しました。高校生に講義をしたが、歯周病と糖尿病に関係あることを初めて知ったと感想があり、しっかり話も聞いてくれました。子どものころからの取組みは必要だと思います。

[部会長]一般の社会の中ではどのようなことをされていますか？どのような集団に働きかけをしていますか？

[井口委員]高齢者の対象者が多い現状があります。

[委員]今年はフレイル予防に重点をおいて取り組んだので、糖尿病の取り組み回数は少なかったです。子どもに対しての取組みなら、乳幼児や親子を対象とした活動があるので、その中で取り入れていくことはできると思います。

[部会長]予備群や治療中断されている人をどうするかが一番の課題です。中断をしている人の理由は、時間がない人、病識のない人、色々いるが、合併症の怖さを啓蒙するのがよいのではないのでしょうか。

[事務局]健診結果を返すときに、病院ではどのように返しますか。その患者さんの人となりはどう理解して声をかけているのでしょうか。

[委員]HbA1cが5代の人には、注意喚起はしません。6を超えないと時間をとって言わない。低い値のときから声かけするのは間違っていないけれど、ほとんどの人に声をかけていかないといけなくなります。本当に皆に声をかけると、パンクすると思うので、もう少し指導までもっていこうという人を絞った方がいいと思います。

[部会長]通知の対象を絞った方が効果はよいでしょう。皆に案内は送りますか。

[事務局]40代の人に送っています。大多数がHbA1c 5.6~6.0に入るので、年齢ではなく、数値で見えていくことができればと思います。また、健康イベントも実施しており、健康に興味がない人でも実感してもらえそうなイベントにしています。そういった中で、部会の先生とも連携しながらできると、市民の皆様も興味深いものになるので、先生方のご意見もお伺いしたい。

[部会長]生活習慣病相談は糖尿病以外の人にも送っているのか。

[事務局]そうです。

[部会長]複合的に判断しなくてはいけない。健康への意識の差は個人で様々。心配性で、数値がちょっと悪い人、だいぶ悪くても気にしない人もいる。待合室に歯科のチラシを貼ると、患者さんにとって違和感があるのでは。

[委員]歯科医院にはポスターを貼っています。また、草津市は歯科健診受診者が多いので。

[事務局]2~3割受診しています。2歳半健診の啓発の中で、約半数の方がかかりつけ歯科医を持っている傾向があるとわかっています。そのあたりで働きかけができています。口内の出血をみる検査を嫌がることなく実施もしてくれています。また、風船を渡すと、実施してくれるということもある。ターゲットとしたい対象の方に色んな形で啓発をしている。なかなかHbA1c 5.6~6.0の人に働きかけしても響かないことがあるので、部会で意見もらえたらと思っています。

[部会長]毎年この会議は実施しているが、この意見は市民の方に届いていますか。

[事務局]頂いた意見を参考に、例年取組みを少しずつ工夫しており、イベントへの参加者が増えたりということがあります。効果が見えにくく、すぐに結果が表れるものではないが、反映していると思います。

[委員]健康推進員の高校生への取組みの中で、高校生が話をしっかりきいてくれたというのが意外に思います。究極の予防は、子どもの健診や高校生・中学生など病気など関係ない人にアプローチしていくことではないでしょうか。考えの根っこの部分に働きかけることが大事と感じました。市の方でもそういった活動してくれるとよいのではないのでしょうか。

[事務局]保健推進部会でも話し合いましたが、高校生以降から歯科にかかわる機会が少ない現状があります。子どもの頃の歯科の働きかけ以降は、40歳の節目歯科健診までの間がありません。立命館大学のイベントもあるので、上手く活用するのも可能です。

[委員]妊産婦対象の歯科健診もあります。

[事務局]妊婦に対しても歯科健診の機会があります。

[部会長]他にご意見ないようなら事務局に、司会進行をお返しします。

[事務局]本日いただいた意見は、今後の事業に反映させていただければと思います。引き続き、御意見賜りたくお願い申し上げます。これで、本日の部会を閉会させていただきます。ありがとうございました。